

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語表現 A II	
科目基礎情報							
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修			
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	生産デザイン工学科 (知能ロボットシステムコース)		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	My Way Logic and Expression I、サブノート、ワークブック (三省堂) / Evergreen (い い ず な 書 店)						
担当教員	原田 洋海						
到達目標							
1. 英語の基本語彙と文法項目 (高 1 レベル) を理解できる。 2. 多様な機能・場面に応じた表現を理解でき、それを参考に自分の言葉で表現できる。 3. TOEIC Bridgeで65点相当の点数を取ることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	高校 1 年生程度の基本語彙と文法項目を理解することができる。		高校 1 年生程度の基本語彙と文法項目をおおむね理解することができる。		高校 1 年生程度の基本語彙と文法項目を理解することができない。		
評価項目2	多様な機能・場面に応じた表現を理解でき、自分の言葉で表現できる。		多様な機能・場面に応じた表現をおおむね理解でき、自分の言葉で多少のミスはありつつ表現できる。		多様な機能・場面に応じた表現を理解できず、自分の言葉で表現できない。		
評価項目3	TOEIC Bridgeで65点以上の点数を取ることができる。		TOEIC Bridgeで65点に近い点数を取ることができる。		TOEIC Bridgeで65点には遠い点数しか取れない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語を理解し使用するために必要な、基本的かつ重要性の高い文法事項を身につける。また、機能や場面に応じた相応しい英語表現を身につけ、それを使って自分の言葉で表現できる。						
授業の進め方・方法	講義と演習を組み合わせる授業を進める。テキスト、辞書を必携のこと。サブノートとワークブックの使用方法については、最初の授業時に説明する。参考書は、自宅での予復習に活用すること。小テストは、随時実施する。その他、適宜課題を課す。						
注意点	必ず予習をして授業に臨むこと。 辞書を必ず持参すること (オンライン辞書でも可)。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、Lesson 6 Traveling Abroad Part 1		不定詞 (名詞的用法、形容詞的用法) について理解し適切に使える。 買い物の場면을想定して英語で会話ができる。		
		2週	Lesson 6 Traveling Abroad Part 2		不定詞 (副詞的用法など) について理解し適切に使える。 旅行先から友人に送るようなメールを英語で書ける。		
		3週	Lesson 7 Sports Part 1		動名詞について理解し適切に使える。 スポーツの試合について英語で会話ができる。		
		4週	Lesson 7 Sports Part 2		分詞の後置修飾、分詞構文を理解し適切に使える。 車いす競技について英語で紹介できる。		
		5週	Lesson 8 Everyday Technology Part 1		比較表現 (比較級) を理解し適切に使える。 紙の本と電子書籍のよさについて、理由も含めて英語で話せる。		
		6週	Lesson 8 Everyday Technology Part 2		比較表現 (最上級、同等比較) を理解し適切に使える。 科学技術製品を紹介する簡単な英語記事が書ける。		
		7週	6週目までのふりかえり、Special Activities		6週目までの内容について復習を行い理解の定着を図る。 行ってみたい場所について英語で話せる。実在のアスリート・著名人について英語で話せる。		
		8週	中間試験		1～7 週目までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
	4thQ	9週	中間試験の解説		定期試験の内容を復習し、さらなる理解の定着を図る。		
		10週	Lesson 9 Take Care part 1		関係代名詞 (who, which ,that) について理解し適切に使える。 病院での場면을想定して英語で会話できる。		
		11週	Lesson 9 Take Care part 2		関係代名詞 (目的格の省略、whose, what) について理解し適切に使える。 健康、健康管理について校内放送風に発表できる。		
		12週	Lesson 10 SDGs --- Take Action! Part 1		関係副詞について理解し適切に使える。 SDGsについて英語で会話できる。		
		13週	Lesson 10 SDGs --- Take Action! Part 2		仮定法について理解し適切に使える。 SDGsについての自分の考えを英語で書ける。		

		14週	13週目までのふりかえり、Special Activity	13週目までの内容について復習を行い理解の定着を図る。 英語でクラスメイトに感謝のメッセージを伝えることができる。
		15週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により授業内容の理解の定着を図る。
		16週	定期試験の解説	定期試験の内容を復習し、さらなる理解の定着を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1	後4,後7,後11,後13,後14
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後15,後16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後15,後16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後7,後10,後11
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	後1,後3,後4,後7,後10,後11
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	後1,後2,後3,後4,後10,後11
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後8,後9,後10,後11,後15,後16
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	後2,後4,後14
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	後1,後3,後4,後7,後10
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	後1,後3,後4,後7,後10
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	後5,後6,後12,後13
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1	後5,後12,後13
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	1	後5,後12,後13
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	後5,後12,後13
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1	後6,後11,後13
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	後5,後7,後11,後12,後13
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	1	後12,後13
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	1	後6,後11,後13
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1	後5,後12,後13
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後10,後11,後12,後13

			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	後2,後4,後6,後11,後13,後14
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	後1,後3,後4,後5,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	後1,後3,後4,後5,後10,後11,後12,後13
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	後7
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	後1,後3,後4,後5,後10,後11,後12,後13
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	後5,後12,後13
			合意形成のために会話を成立させることができる。	1	後5,後12,後13
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	後12,後13

評価割合

	試験	小テスト等	演習・レポート	発表	相互評価	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0